

# 令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立池雪小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

校内平均正答率は、4、5、6年ともに基礎は目標値と同程度であったが、活用については目標値を上回ることができた。これは、今年度の授業改善推進プランの手立てにあげた、「自分の考えを広げたりするために解き方を伝える場や友達と意見交流をする場を設ける」ようにしたその際、ICT機器の活用も積極的に行ったことで、児童の説明能力がよくなったからだと言える。また、学習したことを生活の場面で活用できるように授業を展開してきたことで、低学年ではいろいろな場面で学んだことを使うことが増えた。

### (2) 課題

- ・整数・小数・分数の数のしくみや四則計算については、繰り返し復習をして、基礎・基本の定着を図ってきたが、個々の差が大きく、引き続き継続してどの学年でも取り組む必要がある。学力が低い児童については、補習教室を利用して定着が少しでも図れるようにする。
- ・低学年では生活の場面での活用が増えてきたが、中・高学年の算数少人数授業では習熟度別で分けているため、なかなか実施できていないのが現状である。コースにもよるが、「いかしてみよう」の単元などで積極的に生活の場面で考えさせたり、理科などの実験の際の計算や社会でのグラフの読み取りなどの場面で活かしたりすることを今後も続けていくようにする。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	校内平均正答率は、目標値と同程度であった		
第5学年	校内平均正答率は、目標値と同程度であった	校内平均正答率は目標値を上回っている（第4学年時）	
第6学年	校内平均正答率は目標値を上回っている	校内平均正答率は目標値を上回っている（第5学年時）	校内平均正答率は目標値を上回っている（第4学年時）

### (2) 分析（観点別）

#### ① 4年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値と同程度であった。特に、分数の表し方についてはかなり目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っている。しかし、□を使った式や長さの問題ではやや目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っている。ただ経過時刻を求めたり、棒グラフを読み取ったりする問題は目標値と同程度であった。

#### ② 5年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値と同程度であった。特に、小数や分数のしくみ、分度器の読み取り方、図形の作図については目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値を上回っている。しかし、仮分数と帯分数の大小比較の方法の考察は、目標値を下回っていた。	校内平均正答率は、目標値と同程度であった。特に、図形の作図と概数の表し方は目標値を下回っていた。

#### ③ 6年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
校内平均正答率は、目標値と同程度であった。特に、小数や分数の計算が目標値をかなり下回っていた。	校内平均正答率は、目標値と同程度であった。	校内平均正答率は、目標値と同程度であった。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着を図るため、繰り返し・繰り返りの計算やかけ算を繰り返し行い、基礎計算力の向上を図る。</li> <li>○長さの単位や水のかさの単位を正しく使えるように、実物を使ったり、実際に測ってみたりする活動を取り入れる。</li> <li>○長さや水のかさを実測する前に、見当をつけてから図るようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合ったり、ノートに説明や図を書かせたりする。</li> <li>○文章問題の文末に注目し、なぜその式になるのか説明させることを1年生から継続して行う。</li> <li>○挿絵がどんな場面か話し合うことを通して、場面と式の意味を考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことを、生活の場面で活用できるように、実際に使われている物を見せ、学習したことを実感させる。他教科の中でも学習したことを活用する場面を設ける。</li> <li>○ノートに線を引く時は、ものさしや定規を使うなど、日常的に道具を使う場面を設ける。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎・基本の定着をしっかりと図っていくために、定期的に復習を行い、基礎計算力の向上を図る。特に分数については、単位分数を基に分数をとらえ、数直線を用いて仮分数や帯分数に直す方法を理解できるようにしてから、簡単な加法と減法の計算の習熟を図るようにする。</li> <li>○分度器を使うときには、直角の大きさを基準として角の大きさを判断させてから、測定の方法を考えるようにさせ、習熟を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章題での立式の意味をきちんと理解できるように、教科書の挿絵を使ってどんな場面か話し合わせたり、簡単な絵や図を描かせたりする。また、「分かっていること」と「求めること」を整理して、正確に立式できるようにする。</li> <li>○解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT機器の活用も行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○概数の概念を身近なものとして主体的に学習できるように、導入や取り扱う題材を工夫する。</li> <li>○コンパスを使って模様を描く機会などを意識的に作り、児童が主体的に道具に慣れ、習熟を図れるようにする。</li> <li>○様々な解き方が考えられる課題を提示し、多面的にとらえ検討して、よりよいものを求めて粘り強く考えさせる。</li> <li>○単元末に学習を振り返る活動を行い、できるようになったことを価値付けたり、今後の生活や学習に活用できることを知らせたりする。</li> </ul>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>○小数や分数の四則計算の定着を図るために、具体物、図、数直線などを用いて量をイメージさせたり、筆算では方眼を用いて計算させたり、計算の仕方や手順一つ一つを言語化させたりして、繰り返し既習事項の復習を行う。そして計算の前に答えの見当をつけたり、見直して位が正しいか考えたりすることを意識づけ、計算のミスが減るように工夫させる。</li> <li>○分度器やコンパスなどの使い方については、図や写真、動画などの視聴覚教材を見せて、正しい使い方を理解してから作図させるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な情報を整理し、文章題での立式をきちんとできるようにする。友達と意見交換をする中で、自分の考えを深め広げるようにさせる。</li> <li>○割合や単位量の問題を苦手としているので式の意味を、数直線や図で表して関係を説明できるようにさせる。</li> <li>○解き方を全体に伝える場面を設定し、言葉や図、式などを用いて説明させる。その際、ノートや黒板だけではなく、ICT機器の活用も行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日常の事象を数理的に捉え、概数で求めるとよい場面などの学習したことを、実際の生活の場面で応用できるようにする。</li> <li>○1つの方法だけでなく、様々な解き方を考えさせ、考えて解く楽しみを味わわせる。</li> </ul>

